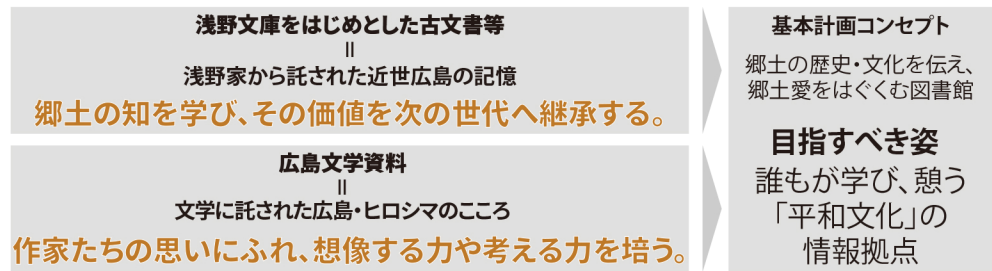


評価テーマ等に対する技術提案（公表用）

評価テーマ1「収蔵環境に関する機能の確保」、評価テーマ2「展示・図書コーナーに関する魅力的かつ活用しやすい配置や空間利用等」、評価テーマ3「周辺の景観との調和や施設特性などを踏まえた外観及び外部空間等」及びその他、設計上の配慮事項等（評価テーマに対する内容を除く。）に対する技術提案（2/2）

2-1 広島市の未来を生み出すチカラを育む

今も100年先も誰もが自由に学びの喜びを享受でき、郷土を愛し、郷土が世界に誇れる都市であることを願って、広島市の歴史文化の底力を、今日を生き未来をつくる力にかえるきっかけとなる展示を目指します。



2-3 文学の世界に引き込みつつ展示物を守る展示計画

誰もが学び、憩う場をつくる4つの展示ゾーニングと展示例

②文学に託された広島市「広島文学」

児童文化運動の先駆者・鈴木三重吉を筆頭に戦前戦後の作品や作家の背景を通して、「郷土の文化」について学ぶ展示を計画します。

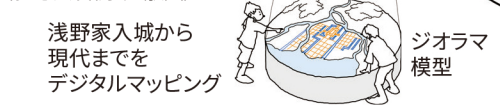
個々の作家に焦点をあてる企画展示



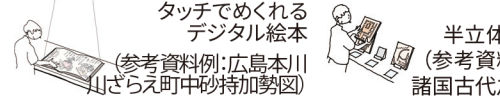
③浅野氏の治世から辿る文化「浅野文庫」

代々文化や学問を重んじ250年に渡り都市広島市の礎をつくった藩主浅野家から託された「郷土の知」について学ぶ展示を計画します。

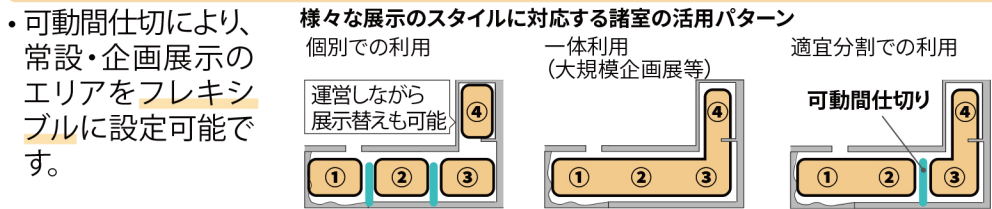
城下町の発展の変遷



デジタル技術による郷土の文化の紹介

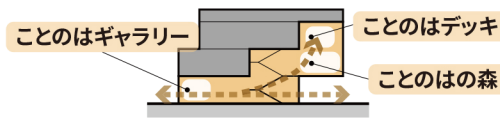


可変性のある展示空間



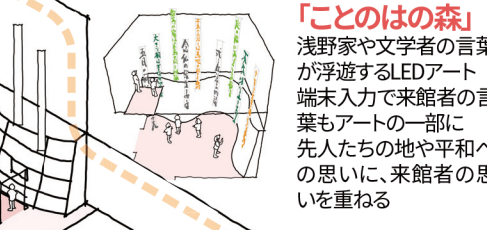
2-2 施設全体と街をつなぐ「ことのは(言の葉)プロムナード」

1階のギャラリー、2階の展示、3階の「ことのはデッキ」までを空間的に連続させ、それぞれの場所で連動した展示を行う「ことのはプロムナード」をつくり、外から中へ、上層階へと自然と建物全体を巡り、歴史・文学の入り口となる展示計画をします。



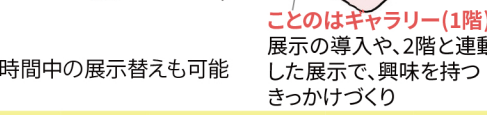
①学び、憩い、交流する「ことのはの森」

施設理念を体現するシンボルアートを展示します。読書・休憩・企画展・講座・イベント等、様々な学びや交流に対応する導入空間となります。



「ことのはの森」

浅野家や文学者の言葉が浮遊するLEDアート端末入力で来館者の言葉もアートの一部に先人たちの地や平和への思いに、来館者の思いを重ねる



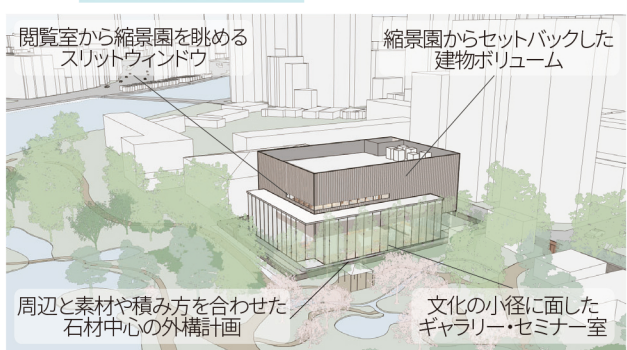
④かけがえのない資料を守る「特別展示室」被爆を免れた貴重な資料を後世へ引き継ぐために、公開承認施設としての条件を満たす特別展示室で大切に展示します。

空気環境を整えた特別展示室

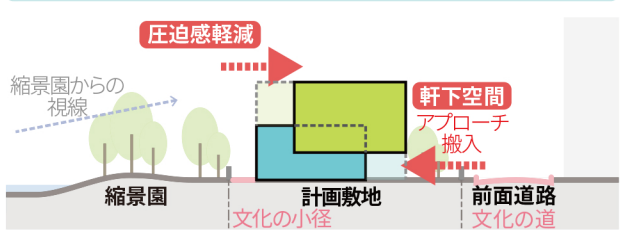
・「公開承認施設」相当の展示室により、資料を守りながら展示し、利用者が本物に触れる機会を作ります。

3-1 ひろしまの景観と所蔵品を守り発信する、庭園の中に佇む「2つのハコ」

広島を代表する名勝である縮景園に囲まれた本敷地において、施設機能を最大化しつつ周辺景観に対して圧迫感を与えない建物形状を提案します。



景観と機能を両立するシンプルな形態操作



主に貴重資料を扱う上層階と、街に開かれる地上階をそれぞれ整形な箱状の形にまとめ、平面的にずらして配置するシンプルな形態操作で、軒下空間の確保と同時に庭園への景観配慮を実現します。

3-2 街から人を引き込み施設ににぎわいをつくる文化の小径・・・「魅せるハコ」の仕掛け



市内の多様な文化要素をつなぐ歴史情報ハブとしての施設

「広島歴史情報ハブ」として、利用者が文化の道に面した施設群にも立ち寄り相互に学習をすることを促し、文化の道の活性化を図ります。敷地南側には周遊を促進するシェアモビリティ置場の設置を検討します。

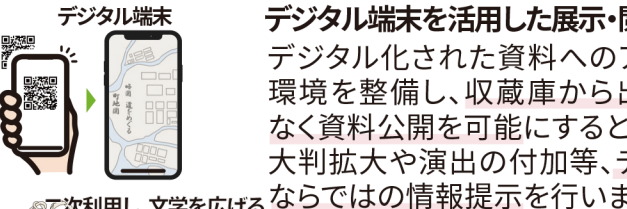
外からも眺められるギャラリー

1階諸室はガラス張りとし、文化の小径への内部からの賑わいの滲みだしにより、施設に立寄りきっかけをつくります。ギャラリーでは展示室の導入展示等を行い施設利用促進につなげます。

学びを直接体感できる縮景園との関係

縮景園への出入口設置も視野に入れて協議し、縮景園を眺められる開口を設け、浅野家の営みを眼前に感じながら浅野文庫に触れられる設えとします。

すべての人に浅野文庫や広島文学に触れる機会を提供するユニバーサルな仕組みづくり



デジタル端末を活用した展示・閲覧環境

デジタル化された資料へのアクセス環境を整備し、収蔵庫から出すことなく資料公開を可能にするとともに、大判拡大や演出の付加等、デジタルならではの情報提示を行います。

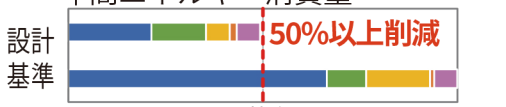
情報発信するオープンデータ化の推進

所蔵品のオープンデータ化を更に推進し利用申請不要で広く情報発信することを提案します。OCRテキストの校正等、一部のデータ化作業をワークショップ化することで市民参加の機会創出にもつなげます。

永く施設を使い続けるためのライフサイクルコスト削減施策

合理的で省エネルギーな経済設計

・経済性に配慮してZEBReadyを実現します
・設備と建築の相互で空調負荷を低減します
・汎用な機器、センサーで省エネ化を図ります



設計基準	空調	給湯	換気	昇降機	照明
建築設備	・最小限の開口部 ・高性能断熱材 ・Low-Eガラス ・高効率型機器 ・人感センサー付き天カセ室内機	・タスクアンビエント照明 ・昼光センサー			

技術提案者

第二位特定者

(注) 用紙は、日本産業規格A列3番とする。